

MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

# MCN REPORT

Vol.26  
2016.2



## Contents

あいさつ .....	1
トピックス .....	2
インタビュー .....	3
大学の出来事 .....	4・5
お知らせ&コラム .....	6



トピックス	平成27年度 三重県専任教員養成講習会	
	平成27年度 認知症ケア看護師養成研修 .....	2
シリーズ	インタビュー .....	3



三重県立看護大学  
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

## 理事長（学長）あいさつ



早川 和生

三重県における今年の最大イベントとして伊勢志摩サミットの開催が挙げられます。世界の主要国の首脳が三重県に集まることは、本県の今後の発展と国際化に大きな影響を与えるものと考えられます。

このサミットの参加国の一つであるイギリスに、昨年7月、林辰弥教授と共に、二つの目的で訪れました。一つは、県内の看護職員等がロンドンのロイヤルフリー病院及びバーミンガム大学附属病院で実践的看護研修を受けるための三重県との国際連携協定の締結であり、鈴木英敬三重県知事に同行したものです。本年2月末から本学の教員も参加して看護研修が始まっています。もう一つは、本学独自の取組として、英国最高峰の大学の一つであるスコットランドにあるグラスゴー大学との交流を開始させるためです。

昨年11月16日から21日までグラスゴー大学からマーガレット・スネッドン看護学科長とグラハム・マッキントッシュ氏の2名が来学し、本学との学生交換交流協定を、植田副知事立会いのもと締結しました。本年6月には、グラスゴー大学から2名の看護学生が本学に、秋には本学の学生2名がグラスゴー大学に滞在し交流が始まります。5月26日、27日には伊勢志摩サミットが開催されます。これを機会にイギリスとの相互理解がさらに深まり、相互交流の一層の活発化が期待されます。

本学の学生の皆さんのみでなく、卒業生の方々も是非、これらの国際交流の取組を利用して、国際的な視野を身につけていただきたいと思います。



## 済生会松阪総合病院との連携協定に関する活動状況



左：地域連携特任教授 前山 和子  
右：済生会松阪総合病院  
辻 恵子 看護部長

済生会松阪総合病院と本学は平成26年3月に連携協定を締結いたしました。締結後は、看護職者の育成、教育研究、人事交流の推進等に取り組んでいます。

特に人事交流事業では、県内でいち早く看護師を大学に派遣していただき、1年間大学で学んだ看護師が、その経験を活かし臨床の現場で看護職人材育成に活躍中です。また、看護実践能力レベル表の見直しや新たな教育プログラムの開発等への取組も進めています。こうした取組が学生の領域別看護学実習でも活かされ、多くの学生を受け入れていただいております。さらに、看工連携事業として、看護用品の開発を病院と大学とで進め、学会で発表するに至っています。

このように、済生会松阪総合病院との連携協定事業の特徴は「看護業務の改善・質向上に向けた取組」であり、今後も緊密な連携体制のもと、病院と大学とが互いに協働し連携協定事業の推進に努めていきます。

## 三重県立一志病院との連携協力協定を締結しました。

平成27年11月27日、本学と三重県立一志病院は「連携協力に関する協定」を締結しました。

「連携協力に関する協定」とは、臨床能力に優れた質の高い看護職者を教育・育成するために連携して取り組むことを目的に、学生の臨地実習を受け入れている地域医療の中核を担う病院と本学が締結しているもので、三重県立一志病院との締結は本学にとって8例目となります。

締結に際しては、三重県立一志病院内にて四方哲院長と早川和生学長が協定書に署名しました。





## 平成27年度 三重県専任教員養成講習会

平成28年1月28日(木)に平成27年度三重県専任教員養成講習会閉講式を挙行了しました。

6月に開講したこの講習会は、三重県からの委託を受け実施したもので、県内外の看護学校の教員や医療機関の看護師等が受講し、29名が無事に修了証を手に入れました。

当日は、来賓の三重県健康福祉部医療対策局長の佐々木孝治様から祝辞をいただいたほか、聖十字看護専門学校長の宮本清子様、三重中央医療センター看護部長の奥田艶子様、三重県立総合医療センター副看護部長江川伸子様からもお祝いのお言葉を頂戴しました。

看護教員に必要な知識・技術を修得できるよう厚生労働省のガイドラインに沿って構成された8か月間に及ぶ講義や演習、実習のすべての単位を取得した修了生は、看護教育に携わる者として更に力をつけ、これまで以上に活躍してくれることと期待しています。



## 平成27年度 認知症ケア看護師養成研修

本年度も昨年度に引き続き、看護職者を対象として、認知症患者への適切な援助や自施設内での他職員への指導ができる知識・スキルを身につけることを目的とした認知症ケア看護師養成研修を実施しました。

医療機関、福祉関係施設で活躍している看護職者の認知症ケアに対する関心は非常に高く、昨年度同様、定員を大幅に上回る申し込みをいただきました。この研修は全6日間の講座で、認知症の病態や治療方法に対する理解に始まり看護理論・実践に至るまで認知症ケアに関わる看護職者として有益な知識が得られるよう工夫しています。

受講者アンケートでは「認知症への理解が深まった」「他の職員にも伝えていきたい」「グループワークを通じ、他施設の方と意見交換できて有意義だった」等の感想が寄せられました。

認知症ケア看護師養成研修の6日間全ての講座を受講した方には修了証書を発行しています。今年は2回の研修で合計137名が修了証書を手に入れました。



## 教員インタビュー

大西 範和地域交流センター長にお伺いしました。

**Q.** ご専門は「生理学」とのことですが、どのような学問なのでしょうか？

**A.** 基礎的な身体のメカニズムを追っていくのが生理学という学問です。その中でも、私は環境生理学、運動生理学が専門です。特に人間の体温調節や発汗機能を中心に研究を行っています。



**Q.** 具体的にはどのような研究をされているのでしょうか？

**A.** 人間の体温は、深部(体の中心部)体温と表面の皮膚温に分けられ、温度にかなりの違いがあります。皮膚温は気温によって変化しますが、深部体温は、大体37℃で、衣類の着脱など感覚から起こる行動による体温調節と、発汗など自律神経系の働きによって起こる体温調節で保たれています。それらが異なる環境条件や運動時、食後、老化などでどのように行われるのか、変わるのかということを研究しています。

また発汗は、体温を調節するために大変重要な機能の一つです。汗は、蒸発する際に気化熱を奪って体温を下げる働きをするので、蒸発せずにぼたぼた落ちてしまう汗は「無効発汗」といい、体温調節には役立ちません。「無効発汗」は余分な汗なので、湿度が高く汗が蒸発しにくい状態が増えて、汗をかいている割に体温が下がらず脱水症状や熱中症が起こるリスクが高まります。

発汗は、体温などの情報をもとに交感神経で調節されているのですが、地球上の数多い動物で、汗をこれほど精密にコントロールしているのは人間だけなんです。人間の皮膚には約200～500万個の汗腺があり、日本人ではそのうちの約230万個が汗を出すことができる能動汗腺です。その一つ一つを神経が支配していて、細かな調節を行っています。発汗による体温調節機能がなければ、人間は暑いところで生きられません。

**Q.** 今後どのように研究をすすめられますか。

**A.** 現在は、発汗以外に冷え性のメカニズムや緩和方法に関する研究をすすめているので、それをさらに突き詰めていきたいと思います。そのほかにも、筋トレの際のアイシングの影響について研究しています。アイシングとは体を冷やすことで、怪我の応急処置や熱中症の予防などに使われています。スポーツなどのトレーニングの後にも行われているのですが、筋トレの後にトレーニングした部位を冷やすと、筋肉の肥大などの期待した効果が少し薄くなることを示すデータがあるので、それを確かめる研究を続けたいと思います。全体としては、温度や熱に関係する研究を続けて、熱中症の予防、冷え性の改善や健康に運動することに役立つことができれば嬉しいです。



# 大学の出来事

## 卒業研究報告会

平成27年12月23日（水）に卒業研究報告会が開催されました。卒業研究は、研究計画書の作成からデータ・資料収集、分析、そして執筆まで、各自が自力で成し遂げる必要があります。教員の助力はあるとはいえ、主役は学生です。そしてこの研究の締め括りとして4年生が約8か月間の研究成果を報告しました。設置された各会場では、学生や教員が熱心に報告に耳を傾け、議論していました。また、来年度に卒業研究を行うことになる3年生が熱心に各会場を回り、報告に耳を傾けていたことが印象的でした。4年生の皆さんには、看護の現場においても研究に関心を持ち続けながら活躍してほしいと思います。



## 修士論文発表会

平成28年1月13日（水）に、平成27年度後期大学院研究科修士論文発表会が開催されました。今回、修士論文コースの学生4名がそれぞれの教育研究領域における研究課題について探究した成果を発表し、質疑応答に臨みました。修士論文発表会は学位授与審議の過程の一端を担っており、研究の意義・重要度、看護学の発展に資する点、研究手法の適切性などについてのやりとりが活発になされました。学生たちは引き続き修士論文審査および研究科委員会での審議を経て、学位取得をめざすこととなります。



## 平成27年度 第3回公開講座

平成27年12月19日（土）に公益財団法人三重県体育協会（みえ女性スポーツ指導者の会）との共催で、平成27年度第3回公開講座を開催しました。当日は250名を超える方にご参加いただき、また、テレビ会議システムを利用して伊賀市立上野総合市民病院、尾鷲総合病院にも講演の様子を配信しました。

「育通力～メダリストをつくる心と身体のマネジメント～」と題して、佐倉アスリート倶楽部株式会社代表取締役の小出義雄先生に良い選手を育てるための極意を、実際のメダリストを育成した経験に基づき分かりやすくお話いただきました。とりわけ、メダリストの高橋尚子選手、有森裕子選手との出会いなど、ここでしか聞けない様々なエピソードに、参加者の方々は熱心に耳を傾けておられました。



また、本学名誉教授の村本淳子氏との対談では、女性特有の身体やメンタルを配慮したうえでの指導法を紹介いただき、参加者からは「もっと時間が欲しかった」「小出先生の人柄も明るく、楽しかった」「女性選手の指導に有意義だった」などのお声をいただき、盛況のうちに終了しました。

# 大学の出来事



## 三重の保健医療を支える 未来の看護職者育成プログラム交流会

大学教育再生加速プログラム

平成27年12月12日(土)、地域推薦入試A・Bによる入学予定者32名とその保護者の方を対象に、「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会」を開催しました。

この交流会は、入学後の学修の質向上を目的とした入学準備教育や三重の保健医療、修学資金についての説明のほか、看護職者としての将来像に対する具体的なイメージの形成を目的とした看護師・保健師についての話、県内の医療機関による自院紹介や医療機関による個別相談などが行われました。個別相談コーナーでは、保護者の方と一緒に現役の看護職者の方からの話を熱心に聴く姿が見られました。



## ……… 高校生のためのオープンクラス ………

1月4日(月)	
1 限目	
2 限目	
3 限目	英語Ⅳ(教養・基礎科目)
4 限目	看護人間工学(専門支持科目)
5 限目	発達心理学(専門支持科目)
	政治学(教養・基礎科目)

1月5日(火)	
1 限目	老年看護方法Ⅰ(専門科目)
2 限目	母性看護方法Ⅰ(専門科目)
3 限目	成人看護方法Ⅰ(専門科目)
4 限目	
5 限目	女性論(教養・基礎科目)

平成28年1月4日(月)、5日(火)、「高校生のためのオープンクラス(授業公開)」を開催し、2日間で51名の高校生の皆さんにご参加いただきました。

オープンクラスとは、大学の授業を公開し、大学生と一緒に90分の授業を受けていただくものです。普段の大学の雰囲気や学生の様子、大学での学びの内容や授業の進められ方などを知ること、大学で看護を学ぶとはどういうことなのか、自分に合っているのかを感じていただくことを目的に実施しました。

参加者の皆さんからは、「授業が始まる前はとても不安で緊張もあったが、授業が始まると内容に引き込まれていき90分が短く感じた」「この経験を今後の志望校選びや進路選択に生かしていきたい」「ますます看護について学びたいと思えた」などの感想をいただきました。ご自身の将来や進路について考える貴重な機会となったことと思います。





# お知らせ&コラム

## 情報センターからお知らせ

### Yahoo! メール終了のお知らせとOffice365メールのご案内

今回該当のメールアドレスを保持されている方へのメールや本学ウェブサイトでのお知らせのとおり、平成28年2月19日をもって学内メールサービスとして利用している「Yahoo!メール Academic Edition」を終了させていただきました。ヤフー株式会社が本年6月30日をもって同サービスの提供を終了することに伴うものです。

在学時に配布されたメールアドレス(xxxxxxxx@mcn.ac.jp)は、Microsoft社のクラウドサービス「Office365」上の「Outlookメール」機能にてメールアドレスを変更することなく引き続き利用することができます。

また、Yahoo!メールは利用できなくなったり、メールが消失したりするわけではありません。今までのように上記のアドレスでログインはできなくなりますが、上記メールアドレスと紐づいたYahoo!Japan IDとこれまで利用していたパスワードで引き続き利用することができます。

Office365メールを利用する際のパスワードについては2月中旬にメールにてお送りしています。また、Office365の利用方法についても本学ウェブサイト (<http://www.mcn.ac.jp/introduce>) にてご案内しておりますのでご確認をお願いいたします。

ご不明な点は情報センター (059-233-5651 / [ic@ml.mcn.ac.jp](mailto:ic@ml.mcn.ac.jp)) までお問い合わせください。



## 附属図書館からのお知らせ

皆さんは『三重県立看護大学学術機関リポジトリ』をご存じですか。

『リポジトリ (repository)』とは『貯蔵庫』を意味し、本学の研究教育活動における学術研究成果物を、電子的手段で収集・蓄積・保存し、学内外に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫のことを指しています。

平成27年5月に公開、平成28年2月現在、『三重県立看護大学紀要』に収録される本学教員等の研究論文149本が全文閲覧可能となっており、一般利用者にとっては、普段あまり目にするもののない本学の研究教育活動の一端を知る貴重な機会になるものと思います。

今後は本学の修士論文の公開も含め、更なる内容の充実を図り、地域社会への成果還元を進めていく予定なので、アクセス (<https://mcn.repo.nii.ac.jp/>) をお待ちしております。



三重県立看護大学  
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING  
学術機関リポジトリ

## 健康コラム



地域在宅看護学  
多次 淳一郎 助教

### 冬のお風呂、安全に入るために ～ヒートショックを防ぐコツ～

“ヒートショック”とは、入浴時などの急激な温度差が原因となって、血圧が急激に変動することをいいます。東京都健康長寿医療センターによる調査(2011年)では、入浴中に死亡した人は全国で1年間に約17,000人と推定され、その多くがヒートショックによるものとみられています。

そしてその多くが12月、1月の冬場に起こっています。これは、冬場は脱衣所や浴室内の温度が下がり、湯船との温度差が他の季節に比べて大きくなるためと考えられます。

ですから、ヒートショックの予防で最も大切なのは、脱衣所や浴室の温度環境を整えることです。具体的には①脱衣所に暖房器具を置いて暖める、②お湯を張る時、設置されていればシャワーからお湯を張る、③お湯の温度も、40℃以下、ぬるめのお湯にする、などがあります。また入浴する時間も重要です。食後1時間以内や飲酒時は血圧が下がりやすくなるため、それらの時間帯をずらして入浴するほうがよいでしょう。



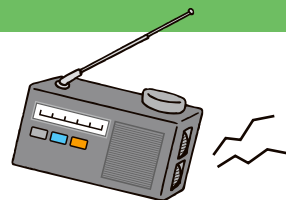
6

MCN REPORT

## FM三重出演中

三重県立看護大学の教員と学生が、FM三重の番組に出演し、情報をお届けしています。

ぜひ、チェックしてください！



### 「EVENING COASTER」(毎週月～木17:00～18:55)

毎月第1木曜日のTOPIC(17:27頃からの5分コーナー)「Let's Healthy Life」に本学教員が出演し、心と体の健康に役立つ話題をお届けしています。

### 「Campus Cube」(毎週金曜日20:30～20:55)

県内の4つの大学が共同で、学生自ら出演し、自由な雰囲気の中、日ごろの関心事や考えていることなどをお届けしています。

## 特別入試について

県内看護職者の充実に向けた取組として実施しています。出願に際しては、卒業後県内に就職する意思を強く持っていることが望まれます。平成28年度の特別入試は昨年11月7日(土)の地域推薦入試Bから始まり、11月21日(土)に地域推薦入試A、平成28年2月6日(土)には地域推薦入試Cをそれぞれ実施し、合計37名が合格しました。4月から始まる学生生活が充実したものとなり、4年後には看護職者として県内での活躍が期待されます。なお、平成29年度入試から地域推薦入試AとBを同じ日に実施しますのでご注意ください。同日実施でも地域推薦入試AとBの併願はこれまで通り可能です。詳しくは今後発表される入学者選抜要項等をご覧ください。

## みかんだい通信 配信中！

三重県立看護大学(三看大)では、メールマガジン「みかんだい通信」を発行しています。

毎月1日、15日に三重県立看護大学に関する最新の情報をお届けします。ぜひ、ご登録ください！



### 本学キャラクター「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大(みかんだい)」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。



### 学章の由来

看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって成長していく若者の姿を大小2つの翼とナースの「N」をモチーフにして表現しました。



### 「大学基準協会」の定める「大学基準」に「適合」と認定されています。

認定マークとは…法で定められた認証評価機関である大学基準協会の大学評価を受けて認定された大学に交付されたものであり、その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることを示すシンボルです。



公立大学法人

# 三重県立看護大学

〒514-0116

三重県津市夢が丘1丁目1番地1

TEL 059-233-5600(代)

FAX 059-233-5666

<http://www.mcn.ac.jp/>



2016年5月26日・27日

伊勢志摩サミット開催